

日本労働年鑑 第57集 1987年版  
The Labour Year Book of Japan 1987

第三部 労働組合の組織と運動

VI 国際労働組合運動

1 国際労働組合組織と日本の労働組合

国際労働組合組織の諸形態

現在、国際労働組織には、大別してつぎの三種類のもものがふくまれている。

(1)原則として各国労働組合中央組織を国際的に結集したもの——世界労働組合連盟(略称・世界労連、WFTU、組合員二億六九〇〇万人)、国際自由労連(ICFTU、八二〇〇万人)、国際労働組合連合(国際労連、WCL、一五〇〇万人)

(2)産業別・職業別の国際労働組合組織——世界労連傘下の——の産業別労働組合インターナショナル、国際自由労連の方針を認めてこれと協定を結んでいる一五の国際産業別・職業別組織(ITS)、国際労連傘下の国際産業別組織、および七四年二月に新たに出現した国際映画放送労連(FISTAV)のようにいずれにも所属せず、それらの枠を超えた国際産業別組織

(3)各国の労働組合中央組織を地域別もしくは民族別に結集した国際組織——アラブ国際労働組合連合(ICATU)、アフリカ労働組合統一機構(OATUU)、ラテンアメリカ労働組合統一常設会議(CPUSTAC)、ヨーロッパ労働組合連盟(ETUC)。

日本の労働組合の加盟状況

以上の国際労働組合組織のうち、日本の労働組合が組織的関係を持っているのは、国際自由労連と世界労連、これら二つの組織につながる国際産業別・職業別組織、および中立の国際産業別組織である。一九八七年一月一日現在における日本の労働組合の国際労働組合組織にたいする加盟関係はつぎのとおりである。

〔国際自由労連〕

同盟(一括加盟)、全通、都市交、炭労、非鉄金属労連、日放労、情報通信労連、自動車総連、鉄鋼労連、商業労連、電力総連、電機労連、全日通、全石油、全国ガス、全日本ゴム労連。

〔世界労連〕

全建労、全自交、建設一般全日自労、運輸一般。

〔国際産業別組織ITS〕

(1)国際金属労連IMF——金属労協IMF・JC、(2)国際運輸労連ITF——国労、動労、都市交、海員、航空同盟、日航客乗労組、交通労連、私鉄総連、観光労連、運輸労連、(3)国際繊維被服皮革労連ITGLWF——ゼンセン同盟、(4)国際化学エネルギー一般労連ICEF——化学エネルギー労協ICEF・JAF(5)国際郵便電信電話労連PTTI——全通、全電通、国際電々労組、情報通信労連、(6)国際鉱山労連MIF——炭労、非鉄金属労連、全炭鉱、(7)国際食品労連IUF——IUF加盟組織連絡

協議会IUF・JCC、(8)国際自由教育連盟IFFTU——日教組、(9)国家公務員労連PSI——自治労、全水道、(10)国際商業事務技術専門職労連FIET——FIET日本加盟組合協議会FIET・JLC、(11)国際製版印刷労連IGF——全印刷、(12)国際建設・林産労組連盟IFBWW——全林野、建設同盟、全化同盟(合板部会)、日林労。

〔世界労連傘下の労働組合インターナショナル〕

(1)建築木材建築資材労働組合インターナショナル——全建労、建設一般全日自労、(2)運輸港湾漁業労働組合インターナショナル——全自交、運輸一般、(3)公共業務関連従業員労働組合インターナショナル——日本医労協、国公労連(準加盟)、(4)世界教員組合連盟——日高教(準加盟)。

〔中立の国際産業別組織〕

(1)国際映画放送労連FISTAV——民放労連、映演共闘、(2)国際音楽家連盟——音楽ユニオン。  
日本の労働組合組織が国際自由労連とITSとに加盟するという八五年以来の傾向はひきつづいてい

る。

まず、国際自由労連への加盟についてみると、電機労連と全日通は八五年の定期大会で加盟を決定し、八六年一月一日付けで正式加盟した。全石油は八六年二月六日に開かれた臨時大会で、全国ガスは七月二日の定期大会で、全日本ゴム労連は九月三日の定期大会で、それぞれ国際自由労連加盟を正式に決定した。三組合は、八七年一月一日付けで正式加盟となった。

また、ITSへの加盟についてみると、全水道は、八五年七月の定期大会でPS1への加盟を決定し、一二月のPSI執行委員会で承認された。全印刷は、八五年九月に開かれたIGF総会で加盟を承認され、八六年一月正式に加盟した。

日本労働年鑑 第57集 1987年版

発行 1987年6月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年8月1日公開開始

---

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1987年版(第57集)【目次】 次のページ → ■  
日本労働年鑑【総合案内】

---

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)

---